

東日本大地震発生時の大学院課の状況

平成 23（2011）年 3 月 11 日

1. 7 号館大学院課奥の作業室において当日全学教授会終了後に開催予定の大学院委員会資料の準備中であった。
2. 強い揺れを感じていたが、すぐに収まるであろうとの判断で作業を継続。しかし、その後も強い揺れが連続したため 7 号館より退出。
3. 当初は 7 号館出入口付近で待機したが、強い揺れが断続的に継続するので道路を挟んだ東北大側テニスコートフェンス寄りに退避。
4. 7 号館を見上げると、棟屋の煙突部分がねじれ、落下の恐れがあることを現認。
6. 揺れが多少収まった時点で、安否確認のため 7 号館各階・各部屋の確認を実施（高橋、佐々木）
7. 人的被害がないことを確認。

- ・学内は騒然としており、具体的な指示は何もなかった。と記憶している。
- ・その後、東北大学のテニスコートに集合。

平成 23 年 3 月 12 日 ～

施設課を中心に学内の被害状況を確認作業。

7 号館は入館禁止区域に設定され、7 号館での大学院に係る業務は一切停止状態。

阿部、佐々木は多賀城キャンパスでの避難者救援の応援のために多賀城に出向くことになる。

連日、被害状況などの報告や今後の対応のため、本館会議室で定期的に打合せ。

（多賀城、泉とは TV 会議）